

## 愚考愚策に敢えて挑戦

今回の文書（始末書等）作成の意図についてご説明させていただきます。外部からの貴重な指摘としてこのような社内（院内）機密文書的色彩の濃いものについては HP や掲示板での公開は控えるべきなのではということでした。私もこの助言はもっともであるし正論とも受け取りました。しかしながら透明性を確保すること、公明正大であることは今の時代の要請です。特に宗門には欠けている部分です。これは永年、寺院改革を全国に先駆けて推進してきたわが寺院の使命です。10年に及ぶ改革の実績や実力を常に情報公開でもって内外に発信し、宗門全体の活力になればと愚考しております。おかげさまで当院は現在、普請（ふしん）の嵐が吹いております。事業の多角化と新しい布教方針、宗教活動を模索中です。信徒からの寄進を依頼したことはこの30年間はございません。すべて寺院会計からの捻出です。私の運営に代わってからの投資額はおよそ3億円（15年間）に及びます。このコロナ禍にあっても決して臆することなく飄々と淡々と行（ぎょう）に邁進している毎日です。この文書作成の一つの意図は宗教的救済の側面もあります。相談役のおひとりからはこんな提言がありました。「様式があって名前を書くだけでは簡単すぎるのでは。反省とは本人が納得して行うもので名前を書いてハイ終わりなら、意味がないのでは。本来の始末書やお詫び状は気持ちがあって、反省をし尚且つ書面に残すものであって、様式に名前を書いて終わりなら、逆に楽ですよ。」と。

私の処置はこれでもよくも悪くも宗教的かなとも思います。ただ時効という一面と宗教的救済とあります。何もしないのがよいのか悩ましいところです。家人からはあまり印象的にはよくないよねと言われました。但し一回はこれもありかなというのが私の挑戦であり愚策でもあります。これからどうしていったらよいのかという人にはひとつの参考になるはずで、一般の人にはよくわからないので意味深ですがこれもよいかと思案しています。そもそもお寺のお知らせ欄に掲載する内容でないものがこのようなかたちで掲示されたことはいわく不可解、この謎めいた代物をしばらくの間、公開することによってお寺の今を知っていただくと思った次第です。一長一短の諸刃の剣的施策は悩ましい限りです。ここは敢えて挑んでみました。また今年の課題の一つに『攻める人事』を掲げてみました。私は社会や会社が雇用を守る必要はないというのが個人的考えです。自分の人生や生活を自分で何とかするのは大人であったら至極当然です。必要とされなくなったらそこで終わりです。すべて自己責任です。それだけのことです。労基法もパワハラもあったものではありません。自立していればよいだけのことですから。甘ったれにかまっていられる時ではありません。合わせてご笑覧いただけましたら幸甚であります。

合掌

令和3年4月8日 釈尊降誕会

見性院住職